

語彙・読解力検定 九工大でも挑戦

1年生52人

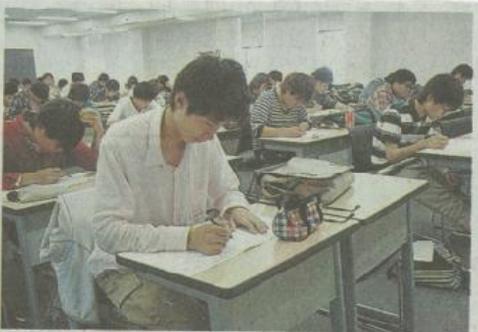
ことばの力を育むため、朝日新聞社とベネッセコーポレーションが共催する

受検は、参加した大学や高校で学生・生徒が検定にのぞんだ。

九州工業大（北九州市）では13日、工学部総合システム工学科の1年生52人全員が、2級に挑戦した。

この学科では今年度から検定を授業のカリキュラムに組み込んでいる。中尾基教授（半導体工学）は「研究は、活発な議論を重ねて進められるもの。理系の学生であっても高い日本語能力は必須」と考え、導入を決めたという。

将来、エンジニアを目指す田中大勢さん（18）は「日本語力には自信があると思っていた。でも、まだまだ語彙が足りないことが分かった」。宇宙関係の仕事に就きたいという松岡美珠さん（18）も「興味のある科学分野の記事は切り抜きをして勉強していたけれど、それ以外の分野の時事用語は難しかった。これを機会に関心の幅を広げていきたい」と語っていた。



「語彙・読解力検定」が各地であり、県内からは2709人が申し込んだ。一般受検の公開会場となった西南学院大（福岡市）では16日、153人が挑戦。団体

「語彙・読解力検定」2級に挑戦する学生ら＝北九州市の九州工業大